女子

大体大22年ぶりV夢散

男子 第56回
女子 第55回
西日本学生バスケット
本社主催

第6日（2日、大阪市中央体育館）

男女とも準々決勝の各4試合ずつを行い、4強が出そろった。女子は、昨年インカレ4強の大体大が、立命大との関西対決に74—84で敗れた。昨年優勝の愛知学泉大は福岡教大に64—56で競り勝った。男子は、大産大が残り時間19秒から逆転し、77—75で近大を破った。昨年の優勝校、九産大は関大に82—85で苦杯をなめた。

韓国遠征から帰国 藤井が奮闘も
身上の守り乱れる

【女子】▽準々決勝

立命大	84	21	23	13	27
大体大	74	18	14	16	26

身上の守りが乱れ、大体大の22年ぶり優勝の夢は消えた。前半を2点リードして折り返したものの、第3クオーターに立命大の3P攻勢を受け逆転を許した。流れを取り戻せないまま、試合終了を迎えてしまった。

就任32年目の中大路監督は「点を取れなくてもいいから、相手を抑えなくてはいけないのに…」と首をかしげた。今春の関西学生選手権に優勝し、チームに勢いが出ていただけに、悔やみきれない様子だった。

李相佰杯（りそうはくはい）日韓学生競技大会に出場していた日本女子学生選抜のC藤井香苗（2年）が、前日に韓国から帰国。合流初日でチームトップの13得点と一人気を吐いたが、勝利の女神にはなれなかった。「もっとシュートエリアを広げないと」と反省ばかりが口をついた。

試合後、選手だけで約30分間の話し合いを持った。藤井は「自分たちの弱点を克服しようと、一人一人が意見を出しました」。最終目標とするインカレ制覇への戦いはもう始まっている。

（広川 継）

韓国遠征から帰国したばかりの大体大・藤井はチームトップの13得点を挙げる活躍を見せる＝大阪市中央体育館（撮影・立川洋一郎）

【女子】▽準々決勝

愛知学泉大	69	6	4	11	2
福岡教大	56	5	6	8	0
桜花学園大	64	5	2	6	0
鹿屋体大	80	8	2	7	5

【男子】▽準々決勝

関大	85	8	2	8	5
京大	96	8	2	7	7
浜松大	77	8	2	5	8
信州大	103	8	2	8	2
九産大	82	7	5	8	2
大阪産大	75	7	5	8	2
大阪商大	82	7	5	8	2
近畿大	75	7	5	8	2
関学大	82	7	5	8	2

V2逃し指揮官不在をわびる

＜男子・九産大▽昨年V校が姿を消した。前半奪った5点のリードを守り切れず、関大の猛攻に屈した。日本男子学生選抜の韓国遠征に前日までコーチとして帯同していた元炳善（ウォン・ビョンソン）監督は「僕がチームを離れていた時間が長くてコミュニケーションを取れなかった。みんなに申し訳ない」と選手をかばった。

佐々木劇的3P

＜男子・大産大▽SG佐々木龍郎（2年）の劇的な3Pが準決勝への扉を開けた。73—75と2点ビハインドで残り時間19秒。パスを受け、直後に思い切りよく放った佐々木のシュートは、ゴールを射止めた。「自分の仕事は3Pしかない。絶対に決めてやろうと思っていた」と、昨年の3P王は胸を張った。

ボーダフォンライブ!ステーションのデイリースポーツ.h西日本・東海地域でただ今好評配信中です!